



第 2 レース レポート

2016/9/11 Rd-5 岡山国際サーキット

天候：晴れ時々曇り 気温：33℃ 出走台数：19 台

観客数：10 日(土)4,000 人 11 日(日)6,000 人 合計 10,000 人

日曜日の Race2 は、ノックダウン第 1&第 2 予選とタイヤ交換義務付け 190 km 決勝で開催された。

午前中に行われたノックアウト予選は、気温 25 度の爽やかな秋晴れの中スタート。ノックアウト第 1 予選、まず中古タイヤでコースコンディションとアタック確認を行った両ドライバーは、残り 7 分でニュータイヤを装着して再度アタックへ。野尻選手は第 1 セクターでベストタイムを計測し 2 番手。バンドーン選手は、第 2 セクターでベストタイムを記録し 3 番手の好発進で第 2 予選へ。

10 分のインターバルを経て迎えた第 2 予選。3 分を経過したころから各車アタックへコースインしてゆく。ところが予選残り 5 分を切った頃、コースアウトによる赤旗が提示される。再開されたセッションは残り 4 分 47 秒。野尻選手がベストタイムを記録したと思えばバンドーン選手がそれを上回る。しかし最後のアタックを完璧に決めた野尻選手がポールポジション。バンドーン選手は 3 位で予選を終えた。(*予選時に安全確認を怠ったとして、予選 3 位だったバンドーン選手に 3 グリッド降格のペナルティが科せられたため、バンドーン選手は 6 番グリッドからのスタートとなった)。

Race2 スタート時の気温は 33 度。路面温度は 40 度を超えた。

野尻選手はポールスタートからポジションを守り、バンドーン選手は抜群のスタートで 2 ポジションアップの 4 番手で 1 コーナーを通過。野尻選手とバンドーン選手を含むトップ 3 台は 1 分 18 秒台のペースで周回するが、1 周目にタイヤ交換を終えたグループは 1 分 17 秒台で走行、このままではタイヤ交換したグループに先行を許してしまう。チームは両ドライバーにペースアップを指示するが、思うようにペースが上がらない。

チームはバンドーン選手を 19 周目に、野尻選手を 21 周目に、それぞれピットインさせミスなく送り出すが、この時点で野尻 4 番手、バンドーン選手は 9 番手にドロップとなった。

30 周目に発生したスピン車両のためセーフティカーが導入されると、唯一ピットに入っていなかった石浦選手がピットイン。野尻選手とほぼ並ぶ形でピットアウトした石浦選手だったが、野尻選手にセーフティカー中の追い越しによるドライビングスルーペナルティが出される。これで野尻選手は大きくポジションを落とすことになり 16 位で、バンドーン選手はポイント圏内でバトルを繰り広げ 7 位で、Race2 を終えた。



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

40：野尻 選手 予選 1 位 (第 1 予選 2 位 第 2 予選 1 位) 決勝 16 位 HONDA 勢 7 位

第 1 レースでバンドーン選手が優勝したし、車の状態も良く、予選では自信を持って走ることができました。100%力を出し切れた。

決勝でも、スタート良く、首位を維持しようとプッシュしましたが、トップ 3 台を超えるペースが維持できなかった。セーフティカー中に石浦選手がピットアウトしてきたときはスピード差が大きすぎて、あのタイミングでブレーキを踏むのは無理でした。

高い競争力を結果に繋げられなかった事が悔しいです。

41：バンドーン選手 予選 3 位 (第 1 予選 3 位 第 2 予選 3 位) 決勝 7 位 HONDA 勢 2 位

昨日の Race1 も、今日の予選もすごくいい結果だった。野尻選手もポールポジションだし、週末を通してチームとしての結果がいいので、決勝もすごく楽しみにしていた。

残念ながら 3 グリッド降格は大きなハンデだったし、レース戦略も完ぺきではなく、多くのポイントを取り損ねた。

ポジティブな部分としては、車が非常に高いパフォーマンスを持っているので、菅生にこの好調を維持したい。